



れきはくメイトバスツアー (郡上八幡市・楊柳寺 2014.6.25)

No.111 2014・9・25

ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

発行 石川県立歴史博物館

〒920-0963 金沢市出羽町3番1号

TEL.076(262)3236 FAX.076(262)1836

<http://www.pref.ishikawa.jp/muse/rekihaku/>



ISHIKAWA PREFECTURAL
MUSEUM OF HISTORY

れきはく

〈写真特集〉

メイキング オブ れきはく

～リニューアルオープンへの道～



④レンガ補修の終わった箇所から鉄扉復元 2014.9.4



①外壁補修工事
着工直前
2013.10.22



②真冬の補修工事
2014.2.7



③風雨に耐え抜いた鉄扉も化粧直し
2014.6.2

外見もきれいに

歴史博物館の建物は、貴重な近代化遺産として重要文化財に指定されています。リニューアルにあわせ、鉄扉や外壁のレンガの補修をしました。

まずは大引越し

真冬なのに汗だく。まずは博物館内にある数万点の資料を別の場所へ引越し。



資料移転 2013.1.29



建築会議 2013.9.19

さまざまの思いや技術を集めて

どうすれば、すばらしい博物館になるのか？ おそらく今日も会議が行なわれています。

展示環境は大丈夫

壁のクロスは？ 空気の流れ具合は？ 文化財に安全な展示環境をめざすため、文化庁と連携をとりながら展示室の工事をすすめています。



文化庁視察 2013.12.11



レプリカ製作 2013.12.19

どっちが本物？

保護の関係から文化財の多くは長期間の展示は無理。かわりにたくさんのレプリカに活躍してもらいます。写真は縄文時代の弓。完成まで約1か月かかりました。

空っぽの展示室

特別展示室に新たに設置するケースは、自然循環式からより気密性の高いエアータイト式に進化。つねにケース内の温湿度を一定に保つことができますようになります。



室内工事 2014.4.28



照明実験 2014.5.21

照明は博物館の命

資料にやさしい、かつ資料の特徴が際立つ照明とは？ さまざまな視点から照明の実験をしました。

最近歴博ファンの皆様から「二年間も休館しとるんやから、来年春も楽しみやね。今どんななってるん？」というような声を、よくかけられます。リニューアルオープンまであと半年。当館赤レンガ三棟は、いまだ工所用フェンスで覆い隠されたままです。そこで今回は、騒音や埃と戦いながらひたすら準備作業に取り組み、我々の知られざる姿を、ほんのちよつとだけご覧いただきましょ。

最新機器を導入して

4Kカメラなど最新の映像機器を駆使し、祭りの記録作業を進めています。圧巻の映像世界を乞うご期待。写真は白山市横江の虫送り。



映像記録 2014.7.20



再現実験 2014.7.24

明治はしょっぱかった！

梅花女子大学食文化学科（大阪府）のご協力のもと明治時代の洋食を再現。料理はレプリカにするため、すぐに東京の工場へ運びました。

よおっ！百万石の城下町

美しき町並み、道行く武士、一心に働く職人、戯れる動物。城下のパワーを長さ5mの巨大ジオラマで紹介します。これも完成が楽しみ！



ジオラマ製作 2014.9.4

石川県立歴史博物館

リニューアルオープンPRパネル展

平成二十七年春のリニューアルオープンにさきがけ、今回本紙で紹介したメイキング風景を含め、新しくなる博物館の見どころを写真パネルで紹介いたします。会場は、地上約八十メートルからの景色を一望できる石川県庁十九階展望ロビー。ぜひご来場下さい。

開催期間 十月二十日（月）～三十一日（金）（無休）

会場 石川県庁十九階展望ロビー（入場無料）

時間 午前十時～午後八時（県庁開庁時間）

展示内容 リニューアルイメージパネル
メイキング写真パネル
リニューアルイメージ映像放映

会場までのアクセス

バス JR金沢駅西口より約十分 北鉄バス「県庁前」下車

自家用車 北陸自動車道 金沢東IC・金沢西ICより約十分

来庁者用駐車場あり

歴博では今何が…。リニューアル作業の様子を写真パネルで紹介！！

主な刊行物のご案内

- 石川県立歴史博物館蔵品目録 (税込定価) 一、八〇〇円
- 加賀藩主前田斉泰 五〇〇円
- 利家とまつが生きた時代―戦い・くらし・女たち― 一、〇〇〇円
- 加賀百万石への道 ―戦国から太平へ― 二〇〇円
- 昭和ワンダーランド ―モノでたどる戦後― 七〇〇円
- 石川のお宝史 ―名宝から文化財へ― 二〇〇円
- 弥生ムラの風景 ―越のクニ生み・境界・交流― 九〇〇円
- 肖像画にみる加賀藩の人々 一、四〇〇円
- KOSODE 百・華・繚・乱 ―丸紅所蔵衣裳名品展― 五〇〇円
- 本願寺展 ―世界遺産の歴史と至宝― 二、三〇〇円
- トキ舞う空へ ―鳥と人の文化史― 一、〇〇〇円
- 徳川將軍家と加賀藩 ―姫君たちの輝き― 一、〇〇〇円
- くらし&娯楽の大博覧会 ―昭和ストーリー1926～1989― 九〇〇円
- 染の華 織の心 ―加賀・能登の技とデザイン― 八〇〇円
- れきはく所蔵の指定文化財 一、〇〇〇円



『本願寺展』



『くらし&娯楽の大博覧会』



『利家とまつが生きた時代 戦い・くらし・女たち』



『石川のお宝史』

※定価はすべて税込。郵送ご希望の方は、当館へ直接お問い合わせいただくか、当館ホームページ「刊行物案内（図録等）」をご覧ください。（電話〇七六―二六―一三三三）

資料紹介

古文書の楽しみ方

酷暑に始まって豪雨に暮れた夏が終わりまし
た。朝晩の涼しさと力ネタタキの声に秋を感じて
います。秋といえば、古文書の季節。引越越し時
に見つけた一枚をご紹介します。

内容は簡単。錢屋五兵衛の子・喜太郎が、
米仲買の大正持屋五郎兵衛から米二百石に代わ
る証文を受け取ったというものです。ここから少
し深めていきましょう。

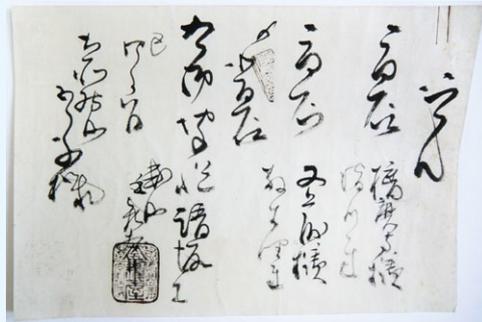
已とありますが、これは巳年のこと。喜太郎が
父五兵衛とともに刑死したのは一八四五（弘化）二
年なので、それより前ですね。その頃の播磨守は
本多政和で、一八二八（文政十二）〜一八四七（弘
化四）の間播磨守でした。同様に、又兵衛は
村井長道で、一八二八（文政十二）〜一八三六（天
保七）の間が又兵衛です。この三人の時代を結ぶ
「巳年」は、一八三三（天保四）年ということにな
ります。

次に、米二百石の内容を見てみましょう。喜太
郎が受け取ったのは、本多家（五万石）の知行米
のうち、越中滑川の蔵宿が管理する百石の証文
（切手といえます）と、村井家（一万七千石）の知
行米から、越中放生津での百石の証文です。これ
で喜太郎は売却できる二百石の米を手にしまし
た。しかも証文ですから全かさ張りません。

加賀藩では、年貢米納入は十二月まででなるべ
く早くと決められています。藩士たちは、蔵宿
に管理を委託し、納入と同時にいくらかを現金化
する必要がありました。実際の米を動かすこと

ができるのは年が明けて四〜五月と決められてお
り、それまではこうした証文による取引が盛んに
行われていました。米の売買にかかわる蔵宿・米
仲買・米屋の商人たちは、輸送費と米相場を眺め
ながら、証文をやり取りしていたのです。
わずかに百文字にも満たない小さな古文書です
が、いつぱいの魅力が詰まっています。

（資料課長 濱岡伸也）



証文（錢屋喜太郎）

覚
一、百石 播磨守様
滑川米
一、百石 又兵衛様
放生津米
×式百石
右御切手懺請取候以上
巳 錢屋
四月八日 喜太郎印
大正持屋
五郎兵衛様

行事日程（9〜1月）

月日	行事	内容
10/17（金）	れきはくゼミナール	能登 仏像ものがたり （学芸主幹 本谷文雄）
11/21（金）	れきはくゼミナール	染織の歴史―小袖文様とその時代― （学芸主任 大井理恵）
12/19（金）	れきはくゼミナール	オカルト都帯浪―大衆化する呪い、異物化する心霊― （学芸課長 大門 哲）
1/16（金）	れきはくゼミナール	海道の絵馬を読む （学芸主幹 戸潤幹夫）

◎開講時間…午後二時〜（約一時間三十分）

◎会場…石川県立美術館講義室

◎受講料及び申し込み…いずれも不要

※休館中のため、本多の森公園内の石川県立美術館が会場となります。

※美術館講義室の開場は、午後一時三十分です。

※駐車場スペースには限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用くださいますようお願いいたします。



れきはくゼミナール 2014.8.15



石川の歴史遺産セミナー 2014.9.6

本多の森から

今回のメイキング特集はいかがでしたか？リニューアルに向けて、博物館の内外で奮闘する職員たちの姿を垣間見させていただきました。続きは来年春をお楽しみに！ですね。本紙紹介分を含めたPRパネル展は、石川県庁十九階展望ロビーでもご覧いただけます。